



令和2年の新春を迎えて

一般社団法人日本オプトメカトロニクス協会 会長
平野 聡
(株式会社トプコン 代表取締役社長 CEO)

令和になって初めて迎えました年頭にあたり、謹んで新春のお慶びを申し上げます。
皆様には当協会の運営及び活動におきまして、多大なご協力ご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

いよいよ東京オリンピック・パラリンピックの開催年となりました。トップレベルのアスリートによる素晴らしい競技を直接観戦できる貴重な機会であるとともに、5G 通信技術による高精細で遅延の無い競技映像の配信や、AR・VR 技術による臨場感豊かな体験型コンテンツの視聴、高速・高精度な顔認証技術による高度で快適なセキュリティなど、今後我々の生活への普及が予測される様々な先端技術を体感できる機会としての期待が高まります。

そして、これら先端技術の進歩においてキーとなる AI テクノロジーは、実用化への道を確実に歩んでいます。この AI テクノロジーの進歩に欠かせない技術的要素として、“コンピューティングパワーの向上”と“データセットの高品質化”があげられます。

コンピューティングパワーの面では、昨年度大きな出来事がありました。Google による量子コンピュータの“量子超越性”を実証したとの発表です。信憑性等については様々な議論が続けられていますが、近い将来における AI テクノロジーの飛躍的進歩を予感させる大きなきっかけになったことは間違いありません。世の中へのインパクトを含め、まさに来るべきイノベーションの予兆であったと言えるでしょう。

一方、AI の学習に不可欠な“データセット”では、IoT やビッグデータ等の普及に伴い急速に“規模の拡大”が進んでいます。このデータセットの“規模の拡大”の次に求められるのがデータセット自体の信頼性の向上、即ち“高品質化”です。膨大なデータセットの確保は、機械学習が牽引する AI テクノロジーの進歩に欠かせませんが、品質が担保されない玉石混交となるデータセットでは AI 本来の性能が発揮されないリスクを含んでいます。そのため、各センサーや計測器から得られる計測データが、AI が安心して学習できる高精度でありかつ高品質な信頼性の高いデータセットであることの重要性は今後益々高まっていくでしょう。

ありとあらゆる光のアナログ信号をデジタル信号に変換する当協会のオプトメカトロニクス技術は、“データセットの高品質化”への貢献により、これからの AI テクノロジーの進歩に欠かせないものであるとともに、今後求められていく高精度かつ高品質なセンシング技術の実現において、当協会会員の皆様方が重要な役割を果たされていくことを確信しております。

当協会もオプトメカトロニクス技術の進歩に対して、引き続き人材育成面において寄与して参ります。令和2年が皆様にとり素晴らしい1年となりますことを、心よりお祈り申し上げ、私の新年のご挨拶とさせていただきます。